

第77回  
秦野たばこ祭

炎が舞い  
光が奏でる

はだのふるさと大使が各種行事に参加！

オープニングパレード  
28日 13:10～

はだのふるさと大使が各種行事に参加！

吉田 栄作  
29日 16:15～  
はだのふるさとステージ

加藤 優  
28日 13:10～  
オープニングパレード

LUNA SEA 真矢  
28日 16:10頃～ 御輿パレード  
29日 16:10頃～ 5んたん運行

大久保 柚希  
第56回東海大学ミスコンテストグランプリ

令和6年9月  
28日・29日

絆ステージ 29日 17:15～

瀬川 瑛子  
西川 ひとみ  
三丘 翔太

※主催者及び出演者の都合により、出演者や時間が変更になる場合があります。

## 秦野たばこ物語 ～葉煙草耕作の歴史～

秦野地域における葉煙草耕作の起源については諸説ありますが、江戸時代初期にまで遡ることは確実のようです。当時は、小さな畑で自家用の耕作が行われていた程度と考えられています。

宝永4（1707）年の富士山大噴火により、火山灰が大量に降り積もり、非常にやせた土地に一変してしまうと、このような土地に適している葉煙草を耕作する農家が増え、天保年間（1830-1844）の頃には一大産地となりました。

葉煙草は、産地でも重要な換金作物であったため、明治時代に入ってから耕作方法の改良が熱心に行われました。

明治31（1898）年、葉煙草専売法の施行と同時に秦野葉煙草専売所が開設されると、葉煙草の納付のため多くの人が訪れ、秦野の町は非常に賑わうようになりました。また、「煙草試験地」も設置され、秦野で培われた古い伝統技術に科学的技術が導入され、秦野の葉煙草耕作法は全国の指針となりました。

しかし、昭和2（1927）年の小田急線開通により京浜地区へのアクセスが向上すると、戦後に衛星都市化、ベッドタウン化が進み、農業に従事しない人々が増えていきました。そして昭和49（1974）年には江戸時代以来の在来種が廃作となります。

黄色種の耕作を続けた農家もありましたが、専売公社が民営化されることが決まった昭和59（1984）年、神奈川県煙草耕作組合は、秦野での葉煙草耕作の廃止を決定し、その長い歴史に幕を閉じました。



葉煙草栽培

生涯学習課

## ごあいさつ

丹沢から吹く風も日に日に爽やかさを増し、秦野盆地にも秋の気配が感じられるようになりました。

本市最大の観光イベントであります「秦野たばこ祭」が、市民の皆様をはじめ、多くの事業所及び関係機関の皆様の温かいご協力、ご協賛をいただき、開催できますことを心からお礼申し上げます。

「秦野たばこ祭」は、昭和23年に本市発展の礎を築いてきた、たばこ耕作者の労をねぎらうとともに、産業の発展を願って始められた伝統あるお祭りです。「葉たばこ耕作」は、昭和59年に300年余の長い歴史に幕を閉じましたが、先人たちが「葉たばこ耕作」に注いだ情熱は、人が変わり時代が流れても、変わらず私たち秦野市民の心に脈々と受け継がれています。

先人たちの情熱は、「秦野たばこ祭」の炎となって燃え上がり、松明やらんたん、大輪の花火とともに秦野盆地を鮮やかに彩ります。

77回目を迎える今年も、「ジャンボ火起こし綱引きコンテスト」や「たばこ音頭パレード」など、伝統行事に多くの方に参加いただき、秦野市民が主役となり、「地元で盛り上げる」お祭りにしていきます。

また、本市にゆかりのある「はだのふるさと大使」をお招きし、趣向を凝らした演出により、祭りに花を添えていただきます。

「炎が舞い 光が奏でる 秦野たばこ祭」  
多くの皆様のご来場を心からお待ち申し上げます。



秦野たばこ祭実行委員会会長 秦野市長 高橋昌和

主催：秦野たばこ祭実行委員会 ☎0463-82-5111  
<https://www.city.hadano.kanagawa.jp/>

後援：神奈川県・（公社）神奈川県観光協会・日本たばこ産業協会・小田急電鉄株式会社  
神奈川中央交通東・神奈川中央交通西・東海大学・上智大学短期大学部・秦野市自治会連合会  
秦野市商店会連合会・秦野市西商店会連合会・秦野商工会議所・（一社）秦野市観光協会・秦野市